

令和 7 年度 特別の教育課程の編成の方針等について

| | | |
|------------|----------|-------|
| 埼玉県 | | |
| 学 校 名 | 管理機関名 | 設置者の別 |
| 戸田市立新曾北小学校 | 戸田市教育委員会 | 公立 |

1. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

本市では、これまで小学校第 3・4 学年において「総合的な学習の時間」を年間 35 時間削減した「英語活動」を設定してきた。また、第 1・2 学年でも「英語活動」を学校教育法施行規則第 5 1 条に定められる授業時数以外で年間 20 時間程度実施し、成果を上げてきた。

新学習指導要領の完全実施を見据え、新たに、これまでの取組をさらに発展させるため、以下の内容で取り組む。

- ① 小学校第 3・4 学年において、現行の 35 時間実施している英語活動に、総合的な学習の時間を年間 35 時間削減し、35 時間を加えた英語活動を実施する。
- ② 本市の研究組織である戸田市英語教育研究推進委員会は、①の時間を活用し、コミュニケーション能力を育成するためカリキュラム及び教材を研究・開発する。

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本市では、以下のようなニーズに応えるため、市内全小学校が教育課程特例校として、「世界で活躍できるとだっ子の育成」を目指し、英語活動をとおして、グローバル力と異文化力を育成する。

- ① 小学校低学年段階から言語活動に慣れ親しませることによる。小・中学校英語教の充実や、英語によるコミュニケーションを主体的に図ろうとする児童生徒の育成。
- ② 中学生海外派遣事業(主催 戸田市国際交流協会)等、国際交流事業への参加促進や、異文化を受容したり異なる文化をもつ人々と交流したりする意識の醸成。

(3) 特例の適用開始日

平成 15 年 4 月 1 日 特例の適用開始

平成 21 年 4 月 1 日 変更

令和 2 年 4 月 1 日 変更

(4) 取組の期間

令和 12 年 3 月 31 日まで

2. 特別の教育課程の実施状況

- ・小学校 3. 4 年生において「総合的な学習の時間」を年間 35 時間削減し、その時間を英語活動として実施した。(週 1 回の 45 分授業と週 3 回の 15 分モジュール授業)
- ・45 分授業とモジュール授業がつながる単元構成を工夫した。
- ・45 分授業では ALT と連携し、「ふれる・なれる・親しむ」という流れでコミュニケーションに慣れ親しませながら、自分の考えや気持ちを伝え合う力を育成した。ミニゲームを行って英語に親しませ、毎時間、ALT や友達同士で英語によるコミュニケーション活動を取り入れた。
- ・新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善が進むよう、戸田市英語教育推進委員会が開発した「英語教育ブックレット 2025」や「モジュール年間指導計画 (R6 作成)」

を活用し、校内研修会を実施した。

- ・戸田市英語教育推進委員会が開発したCAN-DO リストを活用しながら、学習到達目標を児童が達成できるように支援した。
- ・ALT が自国の文化を伝えたり、外国の行事を授業の中で紹介したりしてきた。

(保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況)

- ・学校だより、ホームページやFacebook、外国語通信等を活用して、英語活動の様子を積極的に情報発信した。
- ・学校公開では外国語活動や外国語科の授業参観を公開した。
- ・保護者会や学校運営協議会でも英語教育の取組を紹介した。
- ・Hi! アプリを活用し、保護者ボランティアの協力を得て、実践的に外国語を活用する授業を行った。
- ・戸田市の広報紙や広報番組「ふれあいとだ」にも、英語教育の特集が組まれたので、市民へ情報発信した。

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

本特例は「世界で活躍できるとだっ子の育成」を目指し、小中一貫の英語教育をとおして、グローバル力と異文化力を育成するため、コミュニケーション教育を推進するものである。

本校の「特別の教育課程の実施（英語活動）における評価について」の結果を分析すると、「本校は積極的に英語活動を推進している」の項目が最も高く、「本校の英語活動は、お子様のコミュニケーション能力の育成に役立っている。」という項目でやや高い数値を示している。英語活動で意識している意識している「4つのコミュニケーションルール」（アイコンタクト・クリアヴォイス・スマイル・グッドレスポンス）が日々の活動の中で身につき、異文化コミュニケーションがスムーズにできるようになってきており、人権意識の向上や豊かな心の育成に良い影響を与えている。

一方で、家庭で学校の英語活動の様子を話したり、家庭で実際に英語を使って話をしたりする場面があまり見られていないことから、授業を通して、よりALTや友達とコミュニケーションをとる経験を豊かにし、自分の思いや考えを外国語で伝える喜びを味わわせ、実生活での活用を促進させたい。授業時間内で実践的に外国語を使ったり、触れたりする時間を確保することや、高学年では難度を上げるなど、今後の課題も見えてきている。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本校ではALT が常駐配置されているため、児童は授業以外でもネイティブ・スピーカーの本物の英語を体感し、実生活に近い状況での英語によるコミュニケーションを経験したり、異文化にふれたりしている。そのため自然と他国を尊重する心を育てている。

また、学年末に実施したALTとのスピーキング実態調査では、問いかけに対して無反応の児童がほぼおらず、積極的にコミュニケーションを図ることができていた。英語活動で慣れ親しんだ語彙や表現を活用して、自己開示・自己発揮できる児童がふえており、グローバル社会で求められるコミュニケーションの応力が着実に育成出来ており、特例校の取組の効果が表れている。

さらなるコミュニケーション能力の定着を目指し、取組を推進していく。